

平成15年度 全国私立中学高等学校

教育と情報 研修会

平成15年7月31日(木)～8月1日(金)

私学会館(アルカディア市ヶ谷)

四條畷学園高等学校 飯田英佳

教科の垣根を越えた教職員で構成する大阪府私学教育情報化研究会

昭和61年、大阪府下の私立中学校高等学校97校における教育工学の研究・推進と会員相互の親睦と資質の向上を計ることを目的として「大阪府私学教育工学研究会」が設立されました。発足当初は、「ワープロ部門」「CMI部門」「CAI部門」などに分かれて活動していましたが、平成14年、「教育工学研究会」から「教育情報化研究会」へと改称されました。それを機に、教科「情報」と「総合的な学習」の教科研究をはじめとして、情報関連の授業や学校教育の情報化をめざして活動しています。本研究会の役員は現在39名で、情報担当の先生方だけでなく、英語・国語・地歴公民・技術家庭科など教科を越えた先生方や情報担当の事務職員で構成され、情報の取り扱いに関する取組みの場として広くネットワークでつながり、情報の共有化と情報の発信が日常的に行われています。(昨年度の年間活動は最終頁)

本研究会では、現在「情報関連の授業公開キャラバン」「ICTプロジェクト」「安全教育プロジェクト」の3つを企画し運営しています。

役員会



懇親会



研究会の公式サイト <http://www.osaka-sigaku.net> 「おおさか私学ネット(OSN)」

情報関連の授業公開キャラバン

「情報活用能力の実践力を付けるためにはどのような授業をすればいいのか？」新しい教科「情報」を受け持つ教員の一番の悩みでした。既存教科を教えていた教員が「情報」を担当する場合、これまでの知識伝達に重きをおいた授業スタイルから脱却することは容易なことではありません。そこで、情報関連の教育であると判断し実践している授業を公開しお互いに評価しあうことで、徐々に情報教育の目標を見定め、それに沿った授業をイメージしていくことができるのではないだろうかと考えました。しかし、現実には私学において授業を相互に見せ合う「場」を作ることすら難しい。しかし、単に授業を見せ合うだけでなく、率直に意見を交換し授業の質を高めるための議論を展開するための



方策を検討し公開キャラバンは始まりました。

まず、最初に行ったことは仲間作りです。第1回～第4回のキャラバンを第1ステージと名付け「face to face で何でも言える関係づくり」と位置づけました。特に意識したのは、参観にこられた先生方と委員の先生方との間で確実に連携していくムードを作り、継続的に参加したいという気持ちを持ってもらえる雰囲気作りでした。そのため公開授業後に行われる意見交換会では、参加された方全員に何度も発言していただく機会を与えるなど、次回のキャラバンにも参加していただける関係を築いていきました。そのため、授業参観は50分ですが、意見交換会は毎回90分以上に及びました。



その後、1回～4回のキャラバンのまとめとして、「講演会&シンポジウム」を行い専門家の意見を

伺い、第5回以降のキャラバンを第2ステージとし「ネット上の意見交換を取り入れた授業づくり」をテーマとしたのです。それは、授業参観に加え、授業者の指導案から系統的な授業の流れを理解して公開授業をデザインする時点から相互に意見を交換できるというもので、インターネットを活用することで実践し、お互いが持つ情報教育への概念の共有化をはかろうとしたのです。そして、キャラバンを継続的に実施し情報交換の場を提供し、同時にお互いの授業



により深く関われるシステム作りを目指しました。そのためのツールとして「VBB (Virtual Brainstorming Boards)」が開発されたのです。(VBBについての詳細は後述しています。)

公開授業担当者が、1～2週間前に指導案をwebにアップ。他校の先生方からVBBで意見をボードに書き込んでもらいます。授業担当者は、それを参考に検討し指導案や授業の展開について再考します。さらに授業後の意見交換会でも、そのボードに書き込まれた意見について一層深く話し合うなど、1つの授業を様々な観点をもとに分析することが可能となったのです。

私立学校の教員には、基本的には転勤はありません。ですから私学の教員は、自分の勤務している学校をもとにして、全ての教育のことを判断してしまいがちです。「情報」という今までとは少しフレームワークが異なる教科に取り組んでいこうとする場合には、従来の固定的な教育の枠組みや概念にとらわれては駄目だと思います。この授業公開キャラバンの企画には、そのような私学教員の立場を理解し、自分の学校を取り囲んでいる高い壁を自ら乗り越えて、外の教育環境に興味関心を示し始めている先生方の連携を築き上げるという極めて重要で意義深い活動が含まれていると考えています。

平成13年9月25日に実施した第1回から、この9月26日のキャラバンで20回目を迎えます。今まで、現職教員だけでなく、若手の研究者である大学院生や企業関係者、情報の教科書を制作している出版社、そして大学の先生などの専門家まで延べ約750名もの方に参加していただきました。

今後は、更に輪を広げるために教職を目指している大学生に積極的に参加を呼びかけようと考えています。そのことで、現職から情報科教員に移った先生と最初から情報科教員を目指している学生との間のコラボレーションが育てば、今までにない新しい連携が生み出される可能性があると思います。

また、このプロジェクトに参加して公開授業以外でも驚きや発見が毎回あります。私学に勤務する私は、このキャラバンに参加するまで自分の勤務校の様子しか分かりませんでした。生徒の雰囲気の違い、校風、校舎内の掲示物、職員室の様子、さらには放課後の学校の様子などその他数え切れない程の目新しい情報が飛び込んできます。そんな面白さも授業の情報交換と同様に興味がそそられます。

このプロジェクトは平成 13 年に実施した第 1 回～講演会&シンポジウムまでは、(財)コンピュータ教育開発センター(CEC)によるEスクエアプロジェクトの地域企画「インターネット教育利用のための地域活動支援」を受けました。また、平成 14 年からは、上月情報教育財団の第 11 回情報教育研究助成を受けて運営しています。

第1ステージ 「フェイス-to-フェイス」何でも言える関係づくり

- 情報AI「イギリス留学の報告書作成」
- 情報AI「フリーソフトを利用したマルチメディア学習」
- 情報処理Ⅲ「落下運動のシミュレーション」
- 英語選択「インターネットを活用した個別学習」
- 講演会&シンポジウム

第2ステージ 「ネット上の意見交換」ととりかいた授業づくり 2002年1月～

- 技術・家庭「グループ研究～手作り弁当を作るう！」
- 技術・家庭「考えるレポート発表会とネットでコラボレーションクイズ」
- 選択情報「表のつくり方をマスターしよう/自分史の作成」
- 技術・家庭「食生活について考えよう」
- 集中講座情報「ネットdeイベント/メディアで変わる?コミュニケーション」

サタデーキャラバン

これは、授業公開キャラバンを継続している中で、さらにもっと深く踏み込んで研究しようと発展して企画したミニプロジェクトです。月に1,2回程度土曜日の午後に集まり、今までに実施したキャラバンの授業展開を側面から捉え、もう少し深く掘り下げ分析することでさらに内容あるものとして実践できるようにまとめようと考えています。この7月12日(土)には、新教科「情報」の1学期間の取り組みを共有し、2学期以降の方向修正・来年度の年間計画見直しなどを検討しました。

ICTプロジェクト (International Communication Project)

ICTプロジェクトは、研究課題を『高校生の情報化と国際化に対応できるコミュニケーション能力育成に関する実証研究』とし、松下視聴覚教育研究財団の研究助成を受けた研究会の新しい活動の一つです。

近年その重要性和必要性が叫ばれているプレゼンテーションですが、教育現場ではプレゼンテーションのためのプレゼンテーションの練習に焦点がおかれています。一方、実社会ではプレゼンテーションが効果を持つためには、基礎となるコミュニケーション能力の開発が前提となることが学校教育では見落とされがちなのです。



このプロジェクトの参加は、生徒は5校から17名、教員は10校から18名の計35名で、数回のセッションを行いプレゼンテーションの総合的な技能の向上を目指そうという企画です。

プレゼンテーションの中でコミュニケーションが果たす役割を多角的にとらえ、それぞれのセッションを通して段階的に「考える、まとめる、話す、見せる、伝える」などの技術を、レクチャーとワーク

ショップで練習していきます。

それぞれの学校の生徒，担当者を中心にゲストのレクチャーも交えて，楽しいテーマと内容でプレゼンテーションの新しい形を模索し，新しい時代に対応できる力の養成を図ろうと考えています。

第1回のセッションを6月21日(土)に実施しました。まず最初に自己紹介をせず，参加者の雰囲気作りにマスゲームを行い，連帯感とコミュニケーション作りから始めました。その後，各校の「学校自慢」をテーマに1分間プレゼンを実施。準備・相談の時間は，10分間とし，先生方も生徒と同じ条件で交互に発表しました。中には，英語でやる生徒，歌を歌う先生など，様々なバリエーション。その後，それらのプレゼンのまとめとして，「チラシ」や「テレビ番組の録画」を使って身の回りにはたくさんのプレゼンがあることを確認させ，次回のセッションで行う「自分をプレゼンする」の宿題を伝達。そして，最後にV B Bで今日の感想やプレゼンについての意識の共有を図りました。このようなセッションを5,6回行った上で，最後にプレゼン大会を開き「考える，まとめる，話す，見せる，伝える」などの技術が初期の頃とどの様に変化していったかを探ります。



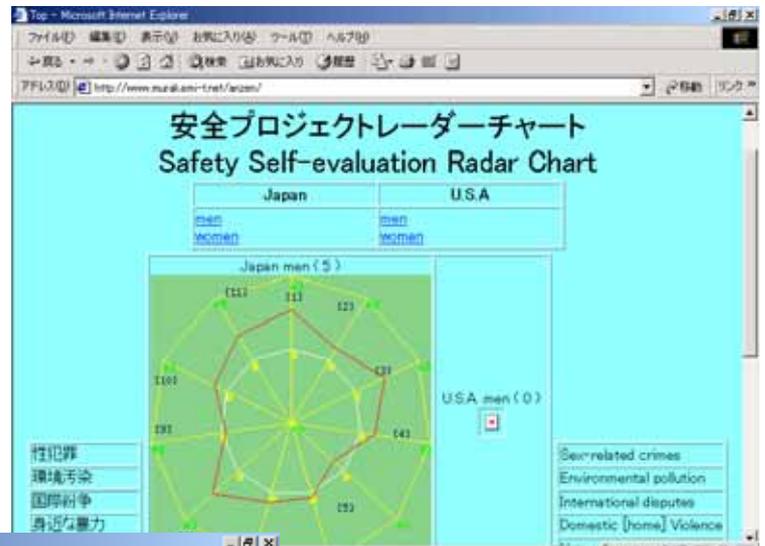
安全教育プロジェクト

本研究会では，過去数年にわたり国際共同学習プロジェクトを実施してきましたが，この安全教育プロジェクトは「総合的な学習」というカリキュラムに位置づけられた実践として行っているものです。日米の中学・高校の教室をインターネットを中核としたITで結び，参加生徒間の議論を通じて，身近な安全（パーソナル・セイフティー）に対して，日米の間で違いを学びます。議論を通じて学んだ日米間の違いを確認するため，相互に相手国を訪問し，face to faceの交流も行います。「安全」という最も基本的な生活環境の違いは，当然，様々な分野における考え方の相違をもたらします。つまり，安全・危険は，その土台・土俵，あるいは，下部構造といえるもので，この違いが理解されていなければ，その上にどのような議論や交流を築いても，本当の理解は生まれないと考えられます。国や個人の安全が世界中で脅かされ，安全に対する聖域がなくなりつつある現状とこれに対する国家間や個人の間での姿勢の違いが誤解を生み，信頼を前提とした交流を行うことを困難にしています。本企画は以上の視点をもとに，ITという新しいツールを使いながら，新しい時代の交流のあり方を交流実践を通じて探ります。

概要

- 2002年4月 企画全体について，特に海外派遣について，各校の校内調整を行う。
- 6月 ニューヨーク市教委，I*earn USA，日米センターニューヨークオフィス訪問。
- 7月 大阪府警察本部ハイテク犯罪対策室による講演。
- 8月 サブトピックを選び，参加生徒各個人で調査・研究を行う。

- 9月 研究発表大会で現状を報告。
- 10月 国際共通V B Bを設置。トピック別に議論を深める。(英語・日本語可)
- 11月 JEARN 関西セミナーで調べた内容を発表。
- 12月 関心の高いトピックに関係する場所などを実施見学。(大阪府堺市みかん農園訪問)
- 2003年 1月 海外派遣について。現地での活動内容。引率者について海外派遣生徒の決定。
- 2月 日米グループ分けを行い、今までの研究で深めた内容をもとに意見交換を行う。
- 3月 日本から1名の生徒ハワイ教育省主催全州会議で発表。ホームステイ。ハワイ生と交流。
- 5月 各グループの研究内容をまとめて、ウェブ上に掲載。
- 7月 JEARNの国際会議(7月20日~26日)参加。7月15日~27日研究内容の共有。意見交換。
- 12月 ニューヨークから10名の生徒、日本訪問。現地調査。ホームステイ。
- 2004年 3月 日本から7名の生徒、ニューヨーク訪問。現地調査。ホームステイ。
ニューヨーク生徒と交流。参加生徒の全体的な自己評価。まとめ。



The image shows a 'Virtual Brainstorming' web page titled 'National Security'. It features a grid of discussion topics and user comments. The topics include: ANY, Japan-US Difference, What we can do, FYE For Your Information, and Ideas On Questionnaire. Comments are from users like a2000, yoichit, a2708, a2704, a2717, a2706, a2713, a2502, a2708, a2711, a2707, and a2716.

このプロジェクトは、国際交流基金日米センター（CGP）と松下視聴覚教育研究財団の助成を受けています。

V B B (Virtual Brainstorming Boards)について 小林直行先生（清教学園）が開発。

V B Bは、Web上でバーチャル・ブレインストーミング等のグループセッションを行うためのボードです。付箋を掲示板に貼り付けるような感覚で、ユーザは自分のアイデアや意見を次々と書き込みます。

V B B 入り口

ボードの開設者（ボードマスタ）は、各列に見出しをつけることができるので、いくつかのトピックスに分類してアイデア収集を行ったりすることができます。利用者は、管理者から発行されたユーザ・アカウントでログインします。ログインすると、これまでに開設されているボード一覧が表示され、「ボードへ」ボタンで、指定のボードへ入ることができます。ボードへの書き込み権（ボード・メンバシップ）は、ボードごとにその開設者（ボードマスタ）から発行されます。しかし、全く初めての場合でも、上記のように guest でログインし、ユーザ・アカウントと指定のボード・メンバシップをフォームから自分で取得することもできます。この場合は申請者が登録したメールアドレスにアカウント情報が送信され、同時にボードマスタにも申請内容が通知される仕組みになっています。

Virtual Brainstorming Boards

Welcome !

User Name

Password

はじめての方は、User ID: guest , Password: guest でログインしてください。ボードに書き込みをする場合は、そのボードに入って、エントリー取得の手続きをしてください。

ボードのセッション一覧の中から、入りたいセッション（ボードID）を選びます。

ボードを開設できるのは、マスタグループに属する「マスタユーザ」だけです。マスタグループへの登録は管理者に依頼する必要があります。ボードを開設したユーザを（そのボードの）ボード・マスタと呼びます。ボード・マスタはそのボードのMF（Master Form）に入って、ボードの見出し（Topics）

ボード一覧

| ボードID | タイトル | マスター | ボードへ |
|----------|--|----------|--------------------------|
| 02110600 | 11/11坪内先生の公開授業にご意見を！ | ngo | <input type="checkbox"/> |
| 02102502 | It is keeping in mind to criminal prevention | tsuda | <input type="checkbox"/> |
| 02102501 | safety | tsuda | <input type="checkbox"/> |
| 02102200 | 10/28@精華3DCG授業案について | toru_m | <input type="checkbox"/> |
| 02101600 | 私のメディア史(10/19公開授業) | fujimoto | <input type="checkbox"/> |
| 02092200 | 情報教育に役立つ情報 | tsuda | <input type="checkbox"/> |
| 02091300 | 9/12津田先生(羽衣)の公開授業を終えて | t-ichi | <input type="checkbox"/> |
| 02090600 | 9/12津田(羽衣)授業案にご意見を！ | akitsuda | <input type="checkbox"/> |
| 02070301 | 7/12授業のアイデア頂戴！！ | chk | <input type="checkbox"/> |
| 02062800 | 指導案[中1 調べ学習] | satake | <input type="checkbox"/> |
| 02022801 | 指導案[ネットワークコミュニケーション] | satake | <input type="checkbox"/> |
| 02022800 | 指導案[プレゼンテーション] | satake | <input type="checkbox"/> |

ボードに入るには をクリックして下さい。

の設定や、メンバシップの追加登録、抹消等を行うことができます。また、ボードへの書き込み内容は基本的には無記名ですが、マスタだけは、必要に応じて、書き込んだユーザ名をセルに表示させることもできます。

V B B は、汎用的に見れば "Webセッション・ボード" です。V B B はチャットではありませんが、このボードはチャットもできます。また、記述回答型アンケートや事務連絡等にも利用できそうです。個人が或るテーマについての断片的アイデアを蓄積するのに便利なツールでもあります。この本研究会では、3つのプロジェクトには欠かせないものとなっており、研究発表大会などの研修会へ参加された方々にその場で意見や感想を書き込んで頂き、リアルタイムで意見交換や情報共有を行っています。

VBBへの書き込み

| 再表示 | | Virtual Brainstorming — 9/12津田(羽衣) 授業案にご意見を！ — | | | | 再表示 |
|---|--|--|---|---|--|-----|
| 0 ANY | 1 課題はどうか | 2 授業時間は | 3 グループ分け | 4 評価 | 5 授業に参観した感想と意見を | |
| <p>単元プランの中に「漠然としている目標から課題を見つけ出す」という一文がありますが、実は、その課題を見つけ出させる指導(?)というかしかけ(?)というものが、なかなか難しいと感じています。津田先生の 支援という指導は、この辺りをどのようにされるのか楽しみです。</p> <p>テーマ選びがとにかく、むずかしいですね。苦労されたところは？</p> <p>1年生で「情報」は既習とのこと、さすがにレベル高いですね。</p> <p>評価シートの項目は、検討の余地ありと見ましたが…。</p> <p>自己評価用紙と相互評価用紙の内容(項目)は、やはり異なると思いますね。</p> <p>テーマは生徒が興味を持ちそうでなおかつ内容の良いもの、ミニハーチャなものをと思いますが今回よりあえず、というか間に合わせず「安全」プロジェクトからかなり借りてきました。</p> | <p>設定した10のテーマの適切さについてでしょうか？</p> <p>今までも「私たちは、盲導犬をテーマに選びました！」というように言って、その後、いきなり盲導犬の説明に入っていくケースがよくみられます。どうしてそのことに興味を持ったのか、他のテーマでよいいなかったのか？という辺りをいつも聞きたいとおもっていますね。</p> <p>課題を生徒に選ませるときには、その「思い」を確かめてやるのが時々必要だと思います。それがうまくいく班の発表は、面白い！</p> <p>生徒が自由に課題を作り出すぐらいの、高いレベルの興味・関心を抱くような物事があるとか、強い問題意識を色々な現象に対して持っているとか、どういいますよ？！とあえず、実験的に「安全」プロジェクトの課題を借りまして約10個の課題を提示し、生徒に選択させました。もちろん自由な課題も可というところで。(津田)</p> | <p>単元プランの時間配分のことですか？</p> <p>今、考えると最初の技術的な面での学習や、サンプル作成・提示などのプレゼンテーションのイメージ作りには無駄が多く適切でなかった、時間の浪費であったと感じるところがありました。(津田)</p> <p>プレゼンの時間配分は難しいですね？ 特に取り組まれたことは？</p> <p>1つでも完成まで行かなくてもまとまったものをプロジェクトで見せると刺激されるようです(津田)</p> <p>関西大学のICTEのワークショップでやった、「1分間プレゼン」は、導入の方法として面白く、効果的だと感じました。</p> <p>多少サボる生徒がいても、ゆっくり時間をかけてやる材料を探しています。質問がたくさん出るのもいいと思います。バラバラ漫画制作は参考になりました。(津田)</p> <p>1分間プレゼンで何ですか？</p> | <p>好きなもの？出席番号？教員が考えてグループを指名？どれがいいのでしょうか？</p> <p>私は、生徒の希望は、聞かずにグループを作ります。その方が、結局、生徒に新しい友達関係を作ることとなるような気がします。</p> <p>各自の取り組みも重視して、まあ、個人がさまならないようにしながらグループで発表するようにもっていきました。班のテーマは同じで最後に全員の作品を結合してまとめる方式でグループ発表しました。</p> <p>これは苦労しました。1まかの教材でもそうですが、どいあえず機械的に座席の近い生徒をくっつけるようにしました。1グループ4人が限度でしょう。(津田)</p> <p>生徒の中でも、グループ活動を通して、お互いにそれぞれの得意、不得意を、なんとなく感じるはずですが、最初は機械的なグループ分けでも、後々はお互いのキャラを見極めて、自由にグループを組</p> | <p>グループとしての評価とそのメンバー個人の評価との切り分けが難しいでしょうか？！</p> <p>生徒にグループ内で、自分の与えられた仕事が十分にできたかどうかを尋ねてみる必要もあるのでは？</p> <p>発表した課題が、どれほどまで自分の問題意識に関連しているかが問題ではないでしょうか？でもグループですか？個人の差はどうすればよいのでしょうか？</p> <p>団体優勝と個人優勝を 決める感じですか？</p> <p>評価結果が早くフィードバックされると盛り上がりそうですね。</p> <p>評価シート更新しました。当日、先生方に評価に参加して頂こうと思いますのでご協力をお願いします。(津田)</p> <p>今でも悩んでいます。どうすればいいか。なぜ、数値化しなければならぬのか。(津田)</p> <p>今回の授業で生徒に何を学</p> | <p>津田先生、ご苦労様でした。生徒たちが素直であることがよくわかりました。せいかくやられた今回のプレゼンをさらに高める時間を生徒に与えてあげて、もう1~2回発表させてあげると、きっと達成感のあるプレゼンができるようになると思いました。</p> <p>授業参観と検討会、そしてこのボードの書き込み、初めての経験でしたが、予想以上の熱気に感動しています。今後、さらに面白い授業をと努力していきたいと、お思います。ありがとうございます。(津田)</p> | |

V B B の授業での使用実践報告

○中学2年の総合的な学習でディベートをさせているが、活発に意見を出す生徒が何度も意見を主張するのに対し、人前で発表が苦手な生徒、考えをまとめるのに時間のかかる生徒もいる。また、仲間意識など普段の人間関係を引きずった意見の出し方も見受けられた。そこで、V B B を利用して、設問に対し「肯定派」と「否定派」の意見を書かせた。あらかじめ、意見は誰が書いたか分からない、特定の人を攻撃してはならない、など最低限の注意だけを与えた上で始めると、生徒達はすぐに操作に慣れ、楽しみながら意見を書き込んでいった。短時間のうちに多数の意見が書き込まれていった。他人の意見を読むことによってさらに発展させた意見をかきこんだり、柔軟な発想によって新たな視点を提供したり、短い文章の中で効果的に書こうと努力をしたりと、生徒達自身の工夫も見られた。

○第9回授業公開キャラバンで行われたネット上でのディベート。テーマは「日本は外国人就労者をもっと受け入れるべきか？」 詳細は、<http://www.osaka-sigaku.net/open/020712/index.html> に。

平成14年度 活動

| 実施日 | | | 会の名称 | 会場名 | 参加人員 | 実施内容の概要 |
|-----|----|---|--------------------------------------|---------------|------|-------------------------|
| 月 | 日 | 曜 | | | | |
| 4 | 2 | 金 | 4月役員会 | 大阪薫英女学院高校 | 13名 | 平成14年度の事業計画の確認と総会の準備 |
| | 19 | 水 | 臨時役員会 | 大阪国際大和田高校 | 15名 | 総会の準備と新しい事務局・会長との顔合わせ |
| 5 | 1 | 水 | 第7回授業公開キャラバン | 大阪信愛女学院高校 | 32名 | 「自分史の作成」(皮田・高木) |
| | 10 | 金 | 5月役員会 | プール学院高校 | 15名 | 翌日の年次総会と次回キャラバンの準備 |
| | 11 | 土 | 総会 | プール学院高校 | 93名 | 関西大学・黒上晴夫・韓国KERIS・ハン教授 |
| | 15 | 水 | Expo Education 2002で発表 | ハービス大阪 | 15名 | 大阪私学の取り組み(飯田,長尾,鹿島) |
| | 17 | 金 | 雑誌の取材(ジャストシステム) | ハービス大阪 | 6名 | 大阪私学の活動内容と仲間作りについて |
| | 17 | 金 | 松下視聴覚教育研究財団の助成金授賞式出席 | 有楽町芝パークホテル | 1名 | 安全プロジェクトが助成金を受賞(津田) |
| | 26 | 日 | ICTEセミナーin岡山 | 倉敷商工会館 | 2名 | 授業公開キャラバンの紹介(長尾) |
| 6 | 5 | 金 | 安全プロジェクトニューヨーク訪問 | ニューヨーク市 | 2名 | 安全プロジェクトの交流打ち合わせ(辻・米田) |
| | 14 | 金 | 6月役員会 | 大阪国際大和田高校 | 14名 | 総会の反省とキャラバンの打ち合わせ |
| | 15 | 土 | ICTEセミナーin関大 | 関西大学尚文館(千里山) | 8名 | 情報教員のためのワークショップ(協力) |
| | 21 | 金 | 6月臨時役員会 | 大阪国際大和田高校 | 13名 | 次回キャラバンの準備,インテル講習会 |
| | 28 | 金 | 第8回授業公開キャラバン | 清教学園中学校 | 27名 | 技術家庭科,国語科と連携(佐竹) |
| 7 | 12 | 金 | 第9回授業公開キャラバン | 清教学園高校 | 23名 | ネットでディベート,VBBの活用(小林・長尾) |
| | 20 | 金 | 安全プロジェクト | プール学院 | 27名 | 薫英,プール,羽衣,帝塚山の生徒で学習 |
| | 25 | 木 | キャラバン委員会 | 内田洋行大阪支社 | 16名 | 今後のキャラバンの展開方法について再検討 |
| | 29 | 月 | 情報施設見学会 | 大阪学院大学 | 7名 | 大学の情報化関連の施設見学,ウェブ活用 |
| 8 | 6 | 火 | インテル研修会準備作業 | 大阪信愛女学院短大鶴見 | 8名 | 翌日からのインテル講習の打ち合わせと準備 |
| | 7 | 水 | インテル講習会(1)7日~14日 | 大阪信愛女学院短大鶴見 | 34名 | インテル実施の教員対象の社会貢献事業 |
| | 21 | 水 | 8月役員会 | 大阪信愛女学院短大鶴見 | 10名 | インテル講習(2)の準備 |
| | 21 | 水 | インテル講習会(2)21日~28日 | 大阪信愛女学院短大鶴見 | 20名 | 私学教員対象は,全国初,1日6時間×6日 |
| 9 | 6 | 金 | 9月役員会 | 大阪国際滝井高校 | 10名 | インテル講習会の総括,キャラバンについて |
| | 7 | 土 | 安全プロジェクト | 羽衣学園高校 | 12名 | 生徒中心でソフトの操作学習(画像編集) |
| | 12 | 木 | 第10回授業公開キャラバン | 羽衣学園高校 | 27名 | プレゼンテーションの学習(津田) |
| 10 | 4 | 金 | 10月役員会 | プール学院高校 | 26名 | 近畿私学研修大会の準備 |
| | 12 | 土 | 大阪府高情研の大会 | 大阪経済大学 | 7名 | 公立中心の研究会へ参加,評価について |
| | 18 | 金 | 前日の会場準備・役員会 | プール学院高校 | 16名 | 翌日の役割分担,準備,冊子綴じ |
| | 19 | 土 | 近畿研修大会(第11回キャラバン) | プール学院高校 | 125名 | 講演(田中博之先生)・公開授業(藤本・小池) |
| | 28 | 月 | 第12回授業公開キャラバン | 精華高校 | 27名 | 3Dソフトの利用について(村上) |
| 11 | 4 | 日 | アイアーン関西セミナー | 万博記念公園ホール | 27名 | 米国アイアーン事務局長の講演(エド博士) |
| | 11 | 月 | 第13回授業公開キャラバン | 府立柴島高校 | 22名 | 府立高校初,メールの活用とHP(坪内) |
| | 16 | 土 | インテルセミナー | 大阪YMCAホール | 8名 | インテル講習で作成した優秀教材の紹介 |
| | 29 | 金 | 第14回授業公開キャラバン | 羽衣学園高校 | 32名 | 英語の授業でVBBを活用(米田) |
| 12 | 13 | 金 | 上月情報教育財団への中間報告書提出 | | 2名 | 長尾・飯田 |
| | 14 | 土 | インテル講習会(3) 14,15,21,22,25,26日の6日間 | 大阪国際大学守口学舎 | 68名 | 夏の講習会と同じ講習 1日6時間×6日 |
| | 22 | 日 | 第1回滋賀県情報教育研究発表大会で発表 | 平安女学院大学 | 1名 | 当研究会の活動を報告(川崎) |
| | 23 | 月 | 安全プロジェクト | 奥野農園 | 15名 | 食の安全について学習 |
| | 26 | 木 | インテル講習親睦会・忘年会 | 大阪国際大和田高校調理室 | 45名 | 蕎麦打ち・おでん・すき焼き・たこ焼きで親睦会 |
| 1 | 10 | 金 | 1月役員会 | 私学会館 | 10名 | 次回キャラバンの準備と研究発表大会について |
| | 21 | 火 | 第15回授業公開キャラバン | プール学院中学校 | 35名 | 3教室にわかれて紹介(総合的な学習の時間) |
| 2 | 19 | 水 | 第16回授業公開キャラバン | 四條畷学園高校 | 26名 | 地元のお店のポスターを作ろう(三村) |
| | 28 | 金 | 2月役員会 | 大阪国際大和田高校 | 12名 | 研究発表大会の準備 |
| 3 | 1 | 土 | 第16回研究発表大会 | 大阪国際大学守口学舎 | 107名 | 岐阜大学付属中学副校長:井上志朗先生 |
| | 8 | 土 | Eスクエアアドバンス成果発表会 | 東京ファッションタウンビル | 5名 | 「情報」関連の授業公開キャラバンの発表 |
| | 12 | 水 | 安全プロジェクト発表 | ハワイ州教育学会 | 3名 | プロジェクトの成果を米国にて発表(辻・米田) |
| | 14 | 金 | 3月役員会 | 私学会館 | 18名 | 次年度の総会の検討 |
| | 24 | 月 | キャラバン研修会 | 私学会館 | 12名 | 本年度のキャラバンの反省会 |

平成15年度

| | | | | | | |
|---|----|---|----------------------|----------------|-----|--------------------------|
| 4 | 12 | 土 | キャラバン委員会 | 四條畷学園高校 | 6名 | 資料のまとめと年間計画表作成 |
| | 18 | 金 | 4月役員会 | 私学会館 | 26名 | 新役員の顔合わせ,今年度の基本方針確認 |
| 5 | 2 | 金 | キャラバン委員会 | 私学会館 | 8名 | 次回キャラバンの内容確認と準備 |
| | 6 | 火 | 第17回授業公開キャラバン | 大阪国際大和田高校 | 29名 | 情報Aの年間指導計画(高田) |
| | 9 | 金 | 5月役員会 | 私学会館 | 20名 | 総会について |
| | 22 | 木 | 兵庫県私学教育情報化研究会発足総会で発表 | 兵庫県私学会館 | 6名 | 本研究会の取り組みの発表(川崎) |
| | 23 | 金 | 総会準備委員会 | 大阪信愛女学院メディアセンタ | 10名 | 総会の準備,冊子印刷 |
| | 24 | 土 | 総会 | 大阪信愛女学院メディアセンタ | 87名 | 影戸誠先生の講演など |
| 6 | 6 | 金 | 6月役員会 | 私学会館 | 18名 | 総会の反省,インテル研修,サーバ-設置について |
| | 10 | 火 | Expo Education2003発表 | OMMビル | 9名 | VBBと本研究会の取り組み |
| | 21 | 土 | 第1回ICTプロジェクト | プール学院高等学校 | 33名 | ICTプロジェクトの説明と実習 |
| | 27 | 金 | 第18回授業公開キャラバン | 向陽台高等学校 | 28名 | 通信制での情報Aの取組み(吉田) |
| 7 | 4 | 金 | 第19回授業公開キャラバン | 上宮高等学校 | 27名 | 情報Aの座学(池田) |
| | 12 | 土 | サタディキャラバン | 上宮高等学校 | 32名 | 1学期の情報授業の取組み検討 |
| | 18 | 金 | 7月役員会 | 私学会館 | 13名 | 各プロジェクトの報告,夏の研修,日本教育情報学会 |